



「写真：日本理化学硝子産業五十年史」
木下義夫著 提供

柴田弘製作所カタログ
「ヒロム印硝子濾過器」表紙

- 1921年10月
- 1940年8月
- 1947年3月
- 1949年8月
- 1951年5月
- 1955年6月
- 1957年11月
- 1961年9月
- 1962年2月
- 5月
- 1963年12月
- 1964年4月
- 1965年4月
- 1968年1月
- 4月
- 1969年4月
- 1971年1月
- 3月
- 10月
- 1972年12月
- 1979年9月
- 1980年8月
- 1983年6月
- 10月
- 1985年10月
- 1987年9月
- 1988年1月
- 1993年8月
- 1997年1月
- 1999年4月
- 9月
- 2000年12月
- 2001年1月
- 11月
- 2003年2月
- 7月
- 11月
- 2004年11月
- 2005年10月
- 2006年4月
- 10月
- 11月

東京・神田須田町に柴田弘製作所を創立。理化学用硝子器具の製造・販売を開始する。

台東区上野花園町に工場及びガラスるつぼ炉建設。ガラス溶融の研究に着手。

ヒロム印ピーカー、フラスコ、シャーレ、冷却器製造開始。

多年の研究が実り「ハリオガラス」の溶融に成功。

東京都江東区白河に硝子溶融炉を設備。一貫作業の深川工場を新設。

新工場に業界初の硬質1級ガラス「ハリオガラス」用タンク炉完成。

深川工場分離。柴田ハリオ硝子株式会社を設立。

S7型サイフォン発売。

JIS表示許可工場（化学分析ガラス器具・ガラス管棒）認定。

ハリオビル落成。

業界初の自動ガラス管成形機を設置。

業界初の自動吹成形機を設置。

耐熱ガラス食器販売部門を分離独立、「ハリオ株式会社」（旧・ハリオ商事株式会社）を設立。

「フリーザーポットの一号型」発売。サイフォンとともに主力製品となる。

硬質1級「ハリオ-32ガラス」開発に成功、量産に入る。

茨城県古河市諸川1371に土地27,000㎡取得。古河工場建設準備に入る。

耐熱ガラス製保存容器初代「サイクルウェア」発売。

古河工場完成。

古河工場本格稼働、生産開始。

創立50周年記念行事と併せ、古河工場落成披露。

独自の技術により「直接通電式ガラス溶融炉」の開発に成功。同設備による本格生産に入る。

*1977年2月/日本発明大賞受賞

*1983年3月/科学技術庁長官賞受賞

「ハリオール」発売。

自動車用ヘッドレンズ分野に進出。

本社を東京都中央区日本橋に移転、資本金4,000万円に増資。

古河工場に世界初のコンピュータ制御によるガラス製品の多種少量生産ラインを完成。本格生産に入る。

古河工場を分離独立させ、「シバタガラス株式会社」を設立、資本金3億円。

ハリオ株式会社、資本金1億円に増資。

ガラスの急須「茶茶」発売。

中国・沈陽玻璃儀器廠へのプラント完成。ハリオ株式会社、発祥の地東京都江東区白河に移転。

資本金4億円に増資。

ハリオ株式会社、シバタガラス株式会社と合併。「ハリオガラス株式会社」設立、

資本金4億5千万円に増資。

ハリオロジテム（ハリオ物流センター）設立。

古河工場、ISO9001 認定工場となる。

創業80周年記念事業の一環として、本社を東京都中央区日本橋富沢町9-3に移転。

ガラスの急須「茶茶急須」発売。

古河工場、ISO14001 認定工場となる。

古河工場、OHSAS18001 認定工場となる。

日本橋本社ビル登録有形文化財として文化庁より「貴重な国民的財産」に認定される。（登録番号13-0148）

世界初、ガラスのバイオリンの製作に成功。

ガラスのチェロ・ピオラ製作。

「V60 透過ドリッパー」発売。

ハリオテック株式会社（旧シバソン）設立。

ハリオ物流センター 新社屋完成。

世界最大、ガラスの琴の製作に成功。



ヒロムブランド
耐熱トースター



S7型サイフォン



フリーザー/IFP



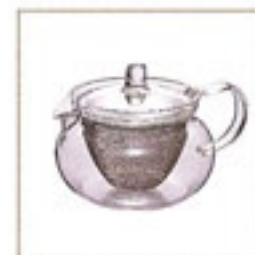
初代サイクルウェア



ハリオール



茶茶



茶茶急須



V60 透過ドリッパー